家でも、どこでも、つながる図書館
～コロナ禍における城西大学水田記念図書館の取り組み～

小川　佳菜子（城西大学水田記念図書館）　宮内　博子（城西大学水田記念図書館・株式会社紀伊國屋書店）　甲田　さと美（城西大学水田記念図書館・日本アスペクトコア株式会社）

1.　はじめに

城西大学水田記念図書館[1)]（以下「当館」）は大学のシンボルとなる９階建ての大きな建物であり、文系３学部・理系２学部・大学院・短期大学の研究と学習を支える総合図書館の役割を担っている。最近では学生選書で学生の声を取り入れ、小説なども取り揃えており、蔵書は約50万冊にのぼる。

４月末から休館が決まり最小限の人数での出勤となる中、「できないことばかりではなく、できることを発信していこう」という方針のもと、担当ごとに様々な取り組みを実施してきた。それらの取り組みについて紹介する。

2.　テレワーク

新型コロナウイルス感染拡大の中、出勤人数を制限するため、図書館スタッフは自宅待機を経てテレワークを行うこととなった。何から始めればよいのか手探りであったが、図書館の休館イコール利用者サービスの停止、という常識は覆さなければならない。まずはスタッフをいくつかのワーキングチームに分け、オンラインでできるサービスを中心に、実施について検討を行った。一方限定された出勤者は、オンライン授業を始める教員へのサポートや電子リソースのリモートアクセス代理登録など、日々の業務を遂行した。この期間中最も注意を払ったことは、スタッフ間に温度差が生まれないようにすること。このような状況下だからこそ、全員が同じモチベーションで業務を行う必要があった。テレワーク中のスタッフは、業務用メールに目を通し図書館の現状を把握するようにしたが、20名近いスタッフが異なる場所で業務を行っている中、それぞれの状況を共有することは想像以上に難しかった。このときのワーキングチームの業務をもとに後の様々なサービスを大きく展開させていくことになるのだが、当初は情報共有があまりうまくできていなかった。そんな中、スタッフからの提案で、いつも行っていた朝礼をMicrosoft Office365 Teams（以下「Teams」）で共有することとなった。このオンライン朝礼により、図書館の現状やそれぞれの業務状況を少しずつ把握できるようになっていった。その後、緊急事態宣言解除に伴い段階的に全スタッフの出勤が可能となり、６月からは制限付きでの開館を開始した。これを機に、オンラインでできる図書館サービスを展開していくことになる。

3.　図書館RPGで利用案内

図書館RPG[2)]は、実際の館内を再現したマップをプレイヤーが自由に散策できる、図書館紹介ゲームである。オリエンテーションのコンテンツの１つとして、新入生にプレイしてもらうことを想定し、制作した。オリエンテーションは新入生に図書館に親しみを感じてもらう重要な機会と捉え、動画での説明を取り入れるなど、コロナ禍以前から試行錯誤を続けていた。今年度はオンラインのみの実施となり、更なる工夫の必要があった。株式会社KADOKAWA発売の「RPGツクール」ソフトによって制作したゲームコンテンツなら、楽しみながら館内のバーチャル体験ができる。動画の視聴はどうしても受け身になりがちだが、ゲームは主体的に操作するため、より興味を持ってくれるのではないかという狙いがあった。

また、Twitterでの発信がきっかけとなり、薬学部医療栄養学科１年生のオンライン授業内でプレイしていただいた。学生からは「ゲームで図書館の事を知ることができて楽しかった」という声や、フロアのボス「レポート仮面」とのバトルでは、「レポートが上手に書けるようになって、敵を

倒したい」「みんなの攻略を読んで進められたが、最後までできなかったのでまたやりたい」など、倒せなかった学生からも反応があった。倒した学生が攻略法をチャットでシェアするなどの一幕もあり、楽しみながら学んでもらえたようだ(図１)。このような学生の様子から、オンライン授業下において、一定の効果があったものと考える。

このゲームは、１人の図書館員が趣味の延長線上で制作したものが原案となっている。「図書館をゲームにしたら面白いのではないか」と温めていたアイデアが、ついに日の目を見たのが今回の機会であった。まさにここしかないようなタイミングで公開できたことも幸運だった。結果として、コロナ禍において、来館できない学生と図書館を繋げる重要な役割を担ってくれたといえる。

７月には、事前予約制のもと開催されたオープンキャンパスで図書館RPGを模した見学コースを用意し、高校生にキーワードラリーを楽しんでもらった。ゲームはバーチャルの体験だが、発想次第でリアルイベントに発展させることができる。コロナ後においても学生を図書館に呼び込むツールとして有効に活用できるよう、工夫を重ねたい。

図１　ボスキャラ「レポート仮面」

4.　オンライン学習支援①ガイダンス

当館では、学生を対象に年間を通して150件を超すガイダンスを実施し、約2,500人が受講している。教員からは新年度前に申込が入ることも少なくない、図書館を代表するサービスの一つである。通常前期でその７～８割を行うガイダンスであるが、コロナ禍で入構禁止となっている状況下、そのサービスをどのような形で行うかを検討した。オンライン授業開始の５月連休明けに間に合うよう、まずは学生認証の学習支援システムWebClassへの資料掲載を行った。学生の受講状況を把握できるよう、教員がダウンロード後、授業コースにインポートして利用するコンテンツを作成したが、手順について教員からの問い合わせが多かったため、学生が直接アクセスして実施できる「受講版」も追って掲載した。また、教員からの強い要望もあり、図書館員と学生の双方向でのガイダンス実施に向け、テレワーク中のワーキングチームが準備をすすめていた、Web会議サービスZoom(以下「Zoom」)でのオンラインガイダンスの最終仕上げを行った。

作成したのは「初めての図書館」という、１年生に向けたガイダンスである。本来であれば図書館をめぐって本を借りてもらう「ツアー」を行うのだが、それをオンラインでどのように再現するか、大学にも図書館にも一度も来たことのない１年生にどう伝えるかが課題だった。そこで、①前述の図書館RPGの操作を組み込み、図書館内部の雰囲気を味わってもらう②３月より導入した電子図書館「LibrariE」[3)]の利用方法を案内するとともに学生に電子ブックを借りてもらう、などの工夫を凝らした。受講した学生からは、「オンライン授業でレポートの課題が多くなっている。参考文献を探すために図書館を利用したい」「図書館の利用法がわかりやすかった」などの声があった。また教員からは、「大学図書館を利用したことのない１年生に資料だけで図書館の活用法を理解させるのは難しい。直接学生に説明してもらえて助かった」などの声があり、Zoomでのガイダンスの効果を感じている。

当初は、急場の対応と考えていたオンラインガイダンスだが、密を避けての学習体系という意味において、今後も需要が高まると考えられる。他のガイダンスコースについてもZoomでの実施に向け、準備を進めている。

また、図書館の図書や文献の複写を自宅へ郵送する「郵送サービス」や、メールや電話のみならず、Zoomでも行えるオンラインレファレンスなどのサービス実施においても、前述のテレワーク・ワーキングチームによるところが大きい。

5. オンライン学習支援②ポータルサイト

ガイダンスの準備と並行して力を注いだのが、ホームページ上で学習支援を行うためのポータルサイト「家でも、どこでも、つながる図書館」[4]の構築である。テレワークが続く中、ホームページ担当者と「他大学情報収集・ワーキングチーム」の二人三脚により作成した。４月半ばにはすでにこうした学習支援ページを公開していた立教大学図書館2020年度新学期 学生向け特設ページ「家でも使える図書館」特集[5]や千葉大学メディアセンター「EYeL」[6]など、他大学の事例を参考に、本学学生に適した内容とすることを意識した。オリエンテーションが終了しても、新入生に案内できるよう、図書館をバーチャル体験できる「図書館ってどんなところ？」のほか、自宅での学習に利用できる電子ブック、電子ジャーナルのリンクを目的別に作成し、各学部に沿って紹介した。「調べ方のコツ」では、学部別のデータベース活用ガイド、就職活動学生向けの資料ガイドをリンクしたが、これらは過去に作成したコンテンツを再利用したものである。未完成の部分もあったが、最低限の情報でも、まずは学生に提示することを優先し、４月22日、公開に踏み切った。オンライン授業が継続する中、学生に図書館サービスを活用してもらう上で、このサイトがますます重要な位置づけとなっている。対面でのサービスが難しい状況では、インターネット上での発信が最重要であり、いかに学生が一人でも求める情報にたどり着けるか、サービス窓口への誘導の仕方を再考する必要性を痛感している。今後も、このポータルサイトの改良を継続していく予定である。

6. 学生アドバイザーによるオンライン活動

学生アドバイザー[7]とは「学生が学生に相談できる」制度で、平日の９：30から18：20まで、図書館内１・３・７階の相談席で本の探し方やPCの使い方、レポートの書き方などをサポートしている。例年４月中旬の委嘱状授与式から新体制で始動するが、今年度は５月末から16名でオンライン活動を始めた。Teamsを利用して開催した委嘱式では、図書館長からアドバイザーに向けて「休館が続き学生は図書館を遠くに感じてしまっていると思う。そういった学生と図書館を繋げるような役割を期待している」とエールが送られた。最初こそ慣れない環境に戸惑ったが、今では週一回のオンライン会議もスムーズに開催し、各自の業務状況を共有している（図２）。この会議は、学生目線での図書館への提案をもらえる機会でもある。

まず手始めに既存のTwitterアカウントの毎日の更新と学内および他大学学生のオンライン活動についての調査を開始した。前期の目標を「オンライン上で学生が相談できる環境づくりをする」と定め、その第一歩としてTwitterに質問箱を開設した。しばらくすると「アドバイザーになるにはどうすればよいか」など、嬉しい質問が続々届いた。学習に関する質問への回答は一度図書館員が確認し、それ以外の質問は自由に回答するという原則のもと、８月上旬時点で50件もの質問に回答している。個別相談にも対応するため、Twitterで相談窓口メールアドレスも広報している。

さらに昨年度末にサービスを開始した電子図書館「LibrariE」を用いてアドバイザーによる学生選書を実施した。５万冊以上のリストから「LibrariE」で試し読みをして１人が５冊選び、１冊につき200字程度のおすすめコメントも作成した。その後、図書館員によるコメント添削などを経て、選書開始から約１か月後の７月１日に70冊を公開した。公開前１週間はTwitterでカウントダウンするなど、イベントとして盛り上がるよう工夫を凝らした。公開から２週間後の利用統計によると、半月で前月に匹敵する冊数が借りられ、その約６割が学生選書で選ばれた本であった。

またオープンキャンパスでは、自らの提案でアドバイザーが自宅からオンラインで参加し、館内２箇所のモニター越しで見学者と交流した。「城西大学を選んだ理由を教えて下さい」「一人暮らしはどうですか」などの質問に回答し、高校生に大学生の生の声を伝えることができた（図３）。さらにTeamsのチャット機能で見学者への対応を共有し、少しでも充実した見学になるよう工夫して

いる。実施中の様子はもちろん、事後報告もTwitterで発信し、今あるオンライン環境をフル活用している。

図２　オンライン会議

図３　オープンキャンパス

7.　おわりに

新型コロナウイルスの蔓延により、この春教育現場は大変な混乱の中にあった。本学も前期は全てオンライン授業となり、後期からの対応についてもまだ定かではない。学生のいないキャンパス、図書館はこの上なく静かで、ともすると図書館員としての職務の必要性に疑問を感じてしまうこともある。しかし、このウイルスの終息が見えない今だからこそ、教育支援のあり方を見直す絶好の機会ともいえる。３月から現在に至るまでを振り返ったとき、今まで以上に図書館に携わる者のたくましさを実感する。「自宅から利用できるこんなサービスがあったら便利なのではないか」という提案を１つずつ形にしていく。この原動力は、大学に来られない学生を思う気持ちと、図書館員としてのプライドだったのではないかと思う。これについては、学生アドバイザーも我々図書館員と同じ気持ちでいてくれたことが実に頼もしかった。

今後は、自宅に居ながら図書館のサービスを受けることができる時代となるだろう。新しい生活様式に合わせた図書館サービスを考えていくことこそが、これからの図書館員に必要とされることかもしれない。新型コロナウイルスの拡大が教育現場にもたらしたピンチをチャンスに変えるべく、今後も図書館として可能な限りの新たな教育支援を行っていく。

受領日：2020/8/10（おがわ　かなこ・
みやうち　ひろこ・こうた　さとみ）

参考文献（参照日は全て2020-8-3）

１）城西大学水田記念図書館ウェブサイト.
https://libopac.josai.ac.jp/.
２）城西大学水田記念図書館ウェブサイト.
“図書館RPG TOSHOKAN QUEST”.
https://libopac.josai.ac.jp/rpg/rpglogin.html.
３）城西大学水田記念図書館ウェブサイト.
“LibrariE”,
https://www.d-library.jp/josai/g0101/top/.
４）城西大学水田記念図書館ウェブサイト.
“家でも、どこでも、つながる図書館”,
https://libopac.josai.ac.jp/guide/libevery.html.
５）立教大学図書館ウェブサイト.
“立教大学図書館2020年度新学期 学生向け特設ページ「家でも使える図書館」特集”.
http://library.rikkyo.ac.jp/spc/spc.html.
６）千葉大学附属図書館ウェブサイト.
“Encourage YOUR e-Learning！(EYeL!)”,
https://alc.chiba-u.jp/eyr/online.html.
７）城西大学水田記念図書館ウェブサイト.
“学生アドバイザー”,
https://libopac.josai.ac.jp/apply/adviser.html.

家でも、どこでも、つながる図書館
～コロナ禍における城西大学水田記念図書館の取り組み～

小川　佳菜子（城西大学水田記念図書館）　宮内　博子（城西大学水田記念図書館・株式会社紀伊國屋書店）　甲田　さと美（城西大学水田記念図書館・日本アスペクトコア株式会社）

本稿では、新型コロナウイルス感染症対応のための取り組みについて、勤務体制・オンラインサービス・学生アドバイザー、それぞれの担当者より紹介する。日々変化する状況下で、どのように図書館サービスを維持してきたかについて記す。